

表千家北山会館 特別展
二百年遠忌記念 表千家八代家元
「啐啄齋 ゆかりの茶道具展」

2008 年 4 月 26 日 (土) ～ 6 月 8 日 (日)

月曜日休館 (但し月曜の祝日は開館)

5 月 7 日 (水) ・ 6 月 6 日 (金) は休館

開館時間 9:30～16:30 (入館は 16:00 まで)

～ 館内のご案内 ～

□ 3 階 展示会場

□ 2 階 展示会場 (こちらより順路にそってご見学ください)
立礼席・呈茶席

□ 1 階 受付・休憩所 (喫煙コーナー) ・ 電話

□ 地階 清友ホール (ビデオ上映)
「茶の湯歳時記」 約 30 分
10:00～ 繰り返し上映 (15:45 終了)
* 尚、5/13・5/24 は都合によりビデオ上映が
ございません。予めご了承ください。

※ 展示品の写真撮影はご遠慮ください。

主 催：表千家北山会館 / 後 援：京都新聞社

2 階 展 示 会 場

父 如心齋に関連するもの

如心齋筆消息 多田宗菊宛 発句「南枝花 はしめて 得たり年便」

随流齋作茶杓 銘 淀川

如心齋筆一行「時々勤拂拭」與太郎へ

如心齋筆 「花月」 與太郎へ

如心齋筆 「云置」 〈冊子〉

如心齋筆 「茶覚書」 與太郎宛

初午猿 (與太郎猿)

掛 物 啐啄齋画像 ^{かんかいそうしゅん} 寰海宗 睦和尚賛 五十川閑月庵画

^{む がくそうえん} 無学宗 衍和尚筆 「^{けんおう} 件翁」ノ二字

炭道具 ふくべ炭斗 啐啄齋直書 (元伯百年忌)

掛 物 啐啄齋筆二行「山花開似錦 潤水湛如藍」 〈享和改元(1801)ノ節〉

釜 覚々齋好 小阿弥陀堂釜写 啐啄齋所持 (玄ノ字釜) 浄玄作 (大西家 七代)

茶 碗 啐啄齋手造 赤茶碗 飛石ノ絵彫

啐啄齋手造 黒茶碗 銘 オタフク

掛 物 啐啄齋筆 「茶湯的伝」

水 指 朝鮮平水指 割蓋裏 立浪蒔絵 啐啄齋好

香 合 啐啄齋所持 三日月香合

啐啄齋所持 南京コマ紋香合

啐啄齋手造 丸香合

啐啄齋手造 くずや香合

茶 器 菊桐小棗一对 啐啄齋筆

啐啄齋手造 赤茶入 銘 わび太郎 共蓋

蓋 置 啐啄齋手造 黒 五徳蓋置

啐啄齋好 ^{ほや} 火屋 蓋置 弥介作

竹引切蓋置 風炉用 啐啄齋彫判

掛 物 啐啄齋筆横物 鷺ノ詩 「嶺上懸雲飛態幽媚々映日 色徧浮水田啄罷等閑去
又入芦江東渡頭 右詠鷺 啐啄齋(花押)」

啐啄齋筆 橋ノ絵賛 「人從橋上過 橋流水不流」

啐啄齋筆 蕪ノ絵賛 「かぶらとも 柿とも見へぬ 一筆は
心ごろの 数寄のたのしみ」 絵は宗員時代

啐啄齋筆横物「萬歳緑毛亀」 件翁ノ印

3 階 展 示 会 場

花 入	啐啄斎作 啐啄斎作	竹舟花入 銘 苦 ^{とま} の筆 ^{しずく} 内立浪蒔絵 竹尺八筒花入 一休和尚和歌直書 啐啄斎筆 「尺八はただ一ふしと思いしに ちとせの老の友となるらん」
	啐啄斎作	ふくべ花入 銘 鉢タタキ 狂歌直書 啐啄斎筆 「鉢タタキたたくひさは 身をかへて今花入となるは一興」
香 合	啐啄斎手造 啐啄斎手造 啐啄斎所持	黒香合 瓢箪香合 おたく所持 梅月香合
釜	啐啄斎好 啐啄斎好	達磨 ^{だつま} 釜 浄元作 (大西家 九代) 鯉地紋達磨釜写 浄雪作 (大西家 十代)
風 炉	啐啄斎好	鉄道安風炉 浄元作
水 指	啐啄斎所持 丹波水指 瀬戸一重口水指	備前大一重口水指 啐啄斎銘 古狸 啐啄斎直書 啐啄斎銘 小槌
茶 器	啐啄斎手造 仁清割蓋茶器 藤四郎瓢箪茶入 伊賀茶入 中棗 長入作 啐啄斎所持 啐啄斎手造	赤茶入 銘 鬼コブシ 啐啄斎銘 山柴 江存 ^{こうぞん} 作 一閑作 黒茶入 啐啄斎銘 霜 (樂家 七代) 折タメ棗 一閑作 赤茶入
茶 碗	啐啄斎手造	黒茶碗 銘 小ふくら

3 階 展 示 会 場 左奥の部屋(ガラスケース)

掛 物	啐啄斎筆	道安囲ノ図 (祖堂ノ図) 天明の大火 (1788) 後
その他	啐啄斎好 啐啄斎好 啐啄斎好	松ノ木溜塗 丸卓 啐啄斎判 春斎作 松ノ木摺漆 長板 利斎作 松ノ木摺漆 炉縁

※ 本会期中に展示する全ての道具(文書を除く)を記載しております。
途中、一部道具を入れ替える場合があります。予めご了承ください。

3 階 展 示 会 場 左奥の部屋(ガラスケース)

掛 物	啐啄斎筆	利休画像	(利休二百年忌ノ節)
		月下風前供一啐 斯翁七十成何事	禅餘冷暖碗中浮 名利雖休禍未休
	啐啄斎筆一行「名利共休」		(利休二百年忌ノ節)
巻 物	利休二百年忌	追悼偈	大徳寺 無学和尚筆 (部分)
掛 物	啐啄斎筆	千利休 御所会記写	二幅 菊の間 春屋和尚宛 / 小御所 古溪和尚宛
茶 杓	啐啄斎作茶杓	銘 暁 霜	二百ノ内 (利休二百年忌ノ節)
掛 物	啐啄斎筆発句	改名折柄 「木槿にも恥ず むくげに宗旦名あれば也」	二疊に大あぐら
茶 碗	甲子 茶碗	黒・赤 弥介作	(啐啄斎還暦記念)
香 合	啐啄斎所持	信楽辻堂香合	
掛 物	啐啄斎筆	竹馬ノ絵賛	啐啄斎賛 與太郎画 鳥ノ絵 二幅入
花 入	啐啄斎作	竹尺八筒花入	「茶煙輕颺落花風」直書
掛 物	啐啄斎筆	大黒絵賛	「小槌より無量の宝打出し たゝ正直にさづけたまはる」
茶 碗	啐啄斎手造	赤茶碗	銘 慈童

3 階 展 示 会 場 左手前の部屋

茶 碗	了入作	赤茶碗	(樂家 九代)	長次郎二百年忌ノ節
	新兵衛焼	瀬戸筒茶碗	啐啄斎歌銘	「むかしより新ベエ焼を友として 手筒なれども さむさしのがん」
	伊賀茶碗	啐啄斎銘 霜 枯		
	萩茶碗	啐啄斎銘 武蔵野		
	志野茶碗	啐啄斎銘 籬		
	了入作	赤茶碗	啐啄斎銘 梅	了入二百ノ内
茶 杓	啐啄斎作茶杓	共筒 銘 卯 杖		
	啐啄斎作茶杓	彫銘 まがき		
	啐啄斎作茶杓	二本入 銘 小長刀・無銘(斎号筒書)	(利休二百年忌ノ節)	
	啐啄斎作茶杓	歌銘「山里の かきねの梅は 咲にけり かはかりこそは 春も匂はめ」	天台座主明快 歌	
	啐啄斎作茶杓	共筒	筒ニ実印	
	啐啄斎作茶杓	春七草ノ内 六本入		
		齊(半ゴマ)・御形(スス竹)・タヒラコ(節上り)・ 佛ノ座(上樋深シ)・スス菜(ゴマ竹)・ススシロ(節ナシ)		

* 今回の展示に併せて、表千家八代家元 啐啄斎の生涯と茶の湯を紹介する解説冊子を作成いたしました。ご希望の方は、1 階受付にてお求めください。〔1 部 1,000 円〕